



スカイAカップ第44回関西オープン

3月16~19日
牧野松園ボウル

山本勲18勝目は史上最強レフティーの証

第44回関西オープン(男子)ボウリングトーナメントは、プロ135名、アマ66名が参加して3月16日から4日間、大阪・枚方市の牧野松園ボウルで開催されたが、最終日は山本勲(44期・ABS)が圧巻のボウリングで優勝、レフティーとしては故・龍隆行プロを抜き、単独トップとなる通算18勝目を挙げた。

(主催: 関西オープン実行委員会 / (公社)日本プロボウリング協会)



▲KIJUWATA CUPも断トツで決勝に進みながら最後の1Gで負けていただけで、優勝を決めて安堵の涙も



◀「こんなチャンスがもう一回巡ってくるかな...、でももう一つ順位を上げられるように頑張ります」と須田



◀「去年の2位から一歩後退の3位の藤村リベンジのつもりがさらに悔しい結果になった」

近年は左が上位をにぎわす大会が多かったが、この大会は予選(15G)通過36人中左は2人。そのうちの一人、予選2位通過の山本は、準決勝(5G)で断トツの1211を打ってトップに立つと、8名による総

当たりラウンドロビンでも6勝1敗1分けで、余裕のトップシードを決めた。予選、準決勝と3位通過の須田毅が、ラウンドロビンでも手堅いボウリングで6勝2敗とし、デビュー23年目で自身初の決勝進出を果たした。

昨年2位のリベンジを期す藤村隆史は、2位で進んだラウンドロビンでは、前半4連敗と苦しい戦いだったが、後半持ち直してTV決勝3番目の座をキープした。

3位決定戦

藤村が3フレからフォースと伸ばして、ここまでは完全にペースを握っていたが、7フレは厚めで④⑩スプリットで

雲行きが怪しくなる。「投球の力みからフォームを崩してしまった」と藤村。その後はストライクを奪えず、後半2つのダブルの須田が、214:210と4ピン差で勝ち上がった。

優勝決定戦

「練習ボールでは、投げたいボールは決まっていたけど、思うようなリアクションが出てくなくて、すごく迷った」と振り返った山本。一方の須田も「タフなコンディションになって、狙いどおりにいかなかった」と1フレはいきなり④⑥⑦⑨スプリットでオープンのスタート。山本が1マークリード

の6フレは「ちょっと内ミスしたけど、まさか…」のビッグフォーで、逆にカウント差で須田がリード。

8、9、10フレ1投目と互いに譲らずターキー。ともにオールウェーなら2ピン勝ちの須田だが、2投目は「しっかり投げようと思って、逆に力みが出てしまったかな」と、②④⑤を残す7本カウント。パンチアウトで締めた山本が222:211で制して、通算タイトルを18に伸ばした。

◎山本のコメント

大会のレーンを作って練習したときに、今回は難しいなと感じた。ウレタンも練習したけど、200ぐらいしかいかない。右がレーンができてきてスコアが出始めたときにそれでは勝負にならないので、ラインナップから外した。左に難しいとみんなダメだねって言われるのが嫌なので、俺だけでも打ってやろうと思って頑張った。これでとりあえず龍さんを超えられた。永久シードまではあと2勝。自分では9月以降に強いて思っているの、この



▲2試合を終えて準優勝、優勝と絶好のスタートで、年内の20勝到達にも期待が高まる山本

▲「初のラウンドロビンは緊張したけど、悔いのないように投げ切れた」と、総合4位でベストアマ獲得の谷口悠斗選手(牧野松園ボウル)

状態で下半期を迎えられたら...という想像をしたい。
(優勝ボール: 900GLOBALクルーズ・ブラックナイト、ABS ナノデス・アキュライズテン)

シャリン・ズルキフリはマレーシアの国民的英雄

新連載 report

山下 知且



4月からこのコーナーを担当させて頂くことになりました山下知且と申します。海外のさまざまな情報をお届けしていきたいと思っております。どうぞよろしくお伝えいたします。

記念すべき第1回は、マレーシアの国民的英雄ボウラーであるシャリン・ズルキフリ(Shalin Zulkifli)氏に、マレーシア連邦政府より爵位が授与された話題をお伝えします。シャリンは1978年英国ロンドン

生まれの44歳。14歳からマレーシアのナショナルチームメンバーとして活躍し、2021年1月に代表から引退をするまでに、公式国際大会で通算74個ものメダルを獲得しました。

昔からのボウリングファンの方なら、1994年広島で開催された、第12回アジア競技大会での彼女の活躍を覚えているのではないのでしょうか。当時弱冠16歳ながら、落ち着いた試合運びとその破壊力抜群の投球に、日本のみならずアジアのボウリング界は衝撃を受けました。

国際大会でメダルを取れる競技スポーツが少ないマレーシアにあって、ボウリング競技は大変メジャーなスポーツです。そのなかでもシャリンは特

別な存在で、国民で彼女を知らない人はいないといっても過言ではないくらい、有名なスポーツ選手です。マレーシアで彼女はたくさんの人からよく



▲筆者とシャリンは古くからの友人であり、現在はともにIBFのアスリート委員を務める

声をかけられます。どんなときでもファンの方々に優しく接する彼女の姿を見るたびに、アスリートはかくあるべきと教えられます。

今年2月1日、彼女はこれまでの活躍を認められ、連邦政府からダトゥク(Datuk)という爵位を授与されました。英国でいうところのナイト(Knight)と同等の位だそうです。爵位があるのは英国連邦加盟国らしい伝統ですね。

マレーシアでは毎年12月に国際オープン大会があり、私はその大会期間中に誕生日を迎えることがこれまでにたびたびありました。ある年の誕生日に彼女が自宅でシェパードパイを焼いて持ってきてくれたことがありましたが、これがまた美味しい。英国仕込みのこの手が込んだ料理には、きっと時間がかかったのだろうなと思いを馳せながら、友人の心遣いに大変温かい気持ちになり

ました。昨年7月に私が就任した、国際ボウリング連盟アスリート委員のアジア代表は男女各1名。その女性委員が、彼女です。



▲今年2月には爵位を授与された

やました・ともかつ / 1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年~2011年ナショナルチーム在籍。長崎県スポーツ協会職員、JBC国際委員会委員、長崎県連常任理事。2022年からIBFアスリート委員